

歯科衛生士寿命を伸ばすスクーラー エルゴフレックス



(株)TeamGrin' n Tokyo代表取締役
ニューヨーク大学歯学部非常勤臨床講師
歯科衛生士 **藤森 直子**

アメリカ歯科衛生士会ADHAの調査によると、**アメリカ国内約8割近くの歯科衛生士が腱鞘炎などの何らかの手首のトラウマ：外的な力による体の疲労を抱えています。**私自身も日本全国の歯科医院で研修を13年続ける中で、やはり日本国内でも**数多くの歯科衛生士が日々の臨床による手首の酷使・過労で手首の疲労や時に腱鞘炎などの痛みに悩まされている方もみられ、治療をしながら働いている方も少なくありません。**

スクーリング時の手の動きの中でも特に前腕回転運動や手根関節運動など、歯科医師とはまた違う動きで歯科衛生士は日々手首を酷使している為、更に長年のひねり癖などの動きや無理な角度での施術により負担をかける行為が手首のトラウマの悪化を促進させています。その為に研修先各地では私の利き手でもある左手によるスクーリング研修を行う事も増えてきておりましたが、やはり左利きが右手を使う事より右利きが左手をトレーニングの方が壁が大きいのは事実です。

その中で**長年アメリカの整形医が研究を重ね、いかに歯科衛生士の日々手首をひねる動きに対して腱の負担を少なくし、身体にかかるストレスを抑えることを目指して開発されたこのスクーラーは**米国にとどまらず各地で成果をみせています。特に歯肉の薄い日本人に向けて開発されたミニファイブは臨床内でも幅広く活躍しています。

エルゴフレックスに対して特別な知識が必要ということではなく、**従来通りの最低限の正しい手の動かし方や正しい除石角度などエビデンスに基づいた知識やスキルの習得、継続的な学問のアップデートがあれば間違いなく簡単に日々の臨床に取り入れる事ができます。**

研修の中でも米国の様にトラウマを抱えていた日本の歯科衛生士も左手のトレーニングに加えてこのエルゴフレックスを取り入れる事で改善に向かい、これから先の歯科衛生士人生に希望をもたらせています。

手首の長年の酷使により泣く泣く歯科衛生士という職を離れる方が減ることが期待できますし、今から歯科衛生士人生を長くするための予防として使用することも推奨しています。



エルゴフレックス アダプティブハンドル